

公営企業の現状及びこれからの課題

- 急激な人口減少等に伴い、サービス需要が大幅に減少するおそれ
- 施設の老朽化に伴う更新需要の増大
- 民間活用の推進等に伴い職員数が減少する中、人材の確保・育成が必要
- 特に中小の公営企業では、現在の経営形態を前提とした経営改革の取組だけでは、将来にわたる住民サービスを確保することが困難となる懸念

さらに厳しい経営環境

更なる経営改革の推進

経営戦略の策定・PDCA

- ✓ 経営戦略に基づく計画的かつ合理的な経営を行うことにより、経営基盤を強化し、財政マネジメントを向上
- ✓ 中長期の人口減少の推計等を踏まえた、更新費用等に係るストックマネジメントの成果や将来需要予測・料金収入の低減を反映させながら、投資・財政計画を策定
- ✓ 各公営企業において令和2年度までに策定するとともに、PDCAサイクルにより必要な見直しを図る

投資試算

財源試算

(計画期間内に収支ギャップを解消する)

投資・財政計画（基本10年以上）の策定

広域化等・
民間活用

人材確保、
組織体制の整備

新技術、ICT
の活用

相互に
反映

抜本的な改革の検討

- ✓ 公営企業が行っている事業の意義、経営形態等を検証し、今後の方向性について検討

①事業そのものの必要性・
公営で行う必要性（※1）

②事業としての持続可能性

③経営形態
（事業規模・範囲・担い手）

事業廃止

民営化・民間譲渡

広域化等（※2）

民間活用

(※1)：水道事業及び下水道事業については、公営で行う必要性が高く、地方公共団体の事業主体としての位置づけが法定されていることから、②・③を議論し、広域化等及び民間活用を検討
(※2)：広域化等とは、事業統合をはじめ施設の共同化・管理の共同化などの広域的な連携、下水道事業における最適化や病院事業における再編・ネットワーク化を含む概念

公営企業の「見える化」

- ✓ 複式簿記による経理を行うことで、経営・資産の状況の「見える化」を推進
→ 将来にわたり持続可能なストックマネジメントの推進や、適切な原価計算に基づく料金水準の設定が可能
→ 広域化等や民間活用といった抜本的な改革の取組にも寄与
- ✓ 経営指標の経年分析や他の地方公共団体との比較を通じて、経営の現状及び課題を分析

公営企業会計の適用拡大

経営比較分析表の
作成・公表

「経営戦略」の 改定推進について

令和4年1月25日付総務省自治
財政局公営企業三課長通知

- 中長期的な経営の基本計画である**経営戦略**については、経営基盤強化と財政マネジメント向上の柱と位置付けられるものであり、策定した経営戦略に沿った取組等の状況を踏まえつつ、PDCAサイクルを通じて質を高めていくため、**3年から5年以内の見直しを行うことが重要。**
- 経済財政諮問会議の改革工程表において、**経営戦略の見直し率を令和7年度までに100%**とされており、全ての事業において、より質の高い経営戦略とするよう、**この期限までに経営戦略の改定を要請。**